

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	広島県・広島市	学校名	広島市立阿戸小中一貫教育校		
人権課題	子供に関する課題	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年 特別な教科 道徳	時数等	314時間
目標・人権教育のねらい	自他を大切にし、集団や社会に貢献できる児童生徒を育成する。 ・小中学校の9年間で系統的に指導することにより、児童生徒の自己肯定感を育む。 ・自分の身近な人の違いを認め、互いを尊重し合う心を育てる。				
実施した内容	道徳科の授業を通して、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深めていくよう、授業改善の取組を行う。 ・授業スタンダードの作成（交流する場面の設定、深める・つなぐ発問の工夫） ・道徳授業に使用する教具の活用 ・教材理解のための板書の工夫				
工夫した点	（授業力向上のための工夫） ・授業スタンダードに、深める発問、つなぐ発問をするための発話例を記入し、いつでも教員が見返して使えるようにした。 （指導上の工夫） ・発言しにくい児童生徒が意思表示できるように、心情円盤、ホワイトボード、赤青カード等の意思表示のツールを積極的に活用した。 ・活発な意見交流ができるように、児童生徒の役に立つ板書の工夫を行った。 ①場面絵の効果的な活用 ②教材にでてくるものを可視化 ③意見をキーワードで整理 ④チョークの色、記号の効果的な活用 ⑤多様な板書方法（下から、中心から、対比、平行） ⑥授業前後の考えの変容が分かる工夫 ⑦振り返り時に役立つ工夫				

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・各教科で学んだことと道徳科の指導内容とのつながりを意識したり，道徳科で学んだ内容を振り返らせたりしながら各教科の指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：「わたしは，人権を尊重したいと思う」
事業開始時 9 4 %⇒事業終了後 9 8 %
- ・価値・態度的側面：「わたしは，自分の気持ちを大切にしようと思う」
事業開始時 9 4 %⇒事業終了後 9 3 %

「わたしは，仲間が困っていたら助けようと思う」
事業開始時 9 8 %⇒事業終了後 9 6 %

【生徒変容の分析】
設定した評価指標の数値は下がったが，道徳的価値の理解を深め，自分の考えをもち，ワークシートに意欲・態度面で肯定的な記述をする生徒が増えている。
- ・技能的側面：「わたしは，仲間と協力することができます」
事業開始時 9 6 %⇒事業終了後 9 6 %

「わたしは，仲間のよいところを見つけて伝えることができます」
事業開始時 8 3 %⇒事業終了後 8 8 %

「わたしは，わからないことがあったら解決に向けて仲間と一緒に取り組むことができます」
事業開始時 8 0 %⇒事業終了後 8 8 %

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県・広島市

学校名

広島市立阿戸小中一貫教育校

人権課題

高齢者に関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中1～中3
総合的な学習の時間

時数等

8 時間

目標・人権教育のねらい

自他を大切にし、集団や社会に貢献できる児童生徒を育成する。

- ・人間関係を調節し、主体的に社会を形成する役割を担うことができるよう、自分の思いを自分の言葉で適切に相手へ伝える力を育成していく。
- ・地域の方々との触れ合いを通して、人権感覚を養い、自己効力感を育む。
- ・高齢者を敬い、思いやりの心もち、親切にする意欲・態度を養う。
- ・地域の方から教わったことを基に、地域のために何ができるか考える。

実施した内容

- ・小6で学習した「30年後の阿戸を考えよう」の基礎データとなる情報（年齢別人口構成等）を収集し、自ら地域を数値化して捉え、考える態度を養う。阿戸町の年齢別人口構成を知る。（中1 1時間）
- ・高齢者疑似体験、しめ飾りづくり、（中1 2時間）
- ・介護老人福祉施設「くにくさ苑」を訪問し、阿戸の状況や取組内容を知り、高齢者に対する尊敬や感謝の心を育てるとともに、高齢者の生活や考え方、介護の問題について考える。（中2 1時間）
- ・高齢者交流会、敬老会、認知症サポーター養成講座に参加し、お年寄りから阿戸のことを聞き、地域のために何ができるか考える。（中3 4時間）

工夫した点

（指導上の工夫）

- ・交流の際に、高齢者の様子について、詳細な情報を聞かないようにするなど、個人情報取り扱いに注意する。

（地域や関係機関との連携）

- ・地域の高齢者や介護老人福祉施設「くにくさ苑」に協力いただき、授業を実施した。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・社会科で基本的人権について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら社会科の指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：「わたしは、人権を尊重したいと思う」
事業開始時 94%⇒事業終了後 98%
- ・価値・態度的側面：「わたしは、周りから自分の中にあるよいところを認めてもらえている」
事業開始時 85%⇒事業終了後 92%

「わたしは、自分との違いを理解した上で、相手のことを大切にしようとしている」
事業開始時 94%⇒事業終了後 92%

「わたしは、自分がしたこと、周りの人の役に立ったことがある」
事業開始時 83%⇒事業終了後 84%

【児童変容の分析】
設定した評価指標の数値が下がったものもあるが、学校内外を問わず、自分の言葉で考えを伝えようとしたり、高齢者を敬い、思いやりの心をもって親切に対応したりする生徒が増えた。
- ・技能的側面：「わたしは、安心して自分の考えを仲間に伝えることができます」
事業開始時 82%⇒事業終了後 87%

「わたしは、わからないことがあったら解決に向けて仲間と一緒に取り組むことができます」
事業開始時 80%⇒事業終了後 88%